

Vol. 49



世帯数	3,156
人口	7,915
男	3,812
女	4,103

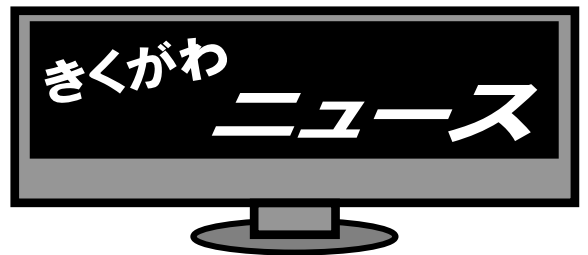
(8月末菊川の人口)

公民館文庫新刊情報
 菊川のひと
 菊川探訪
 笑顔リレー
 菊川日和 etc.



秋の素材をつかったネイチャークラフト

イベント	日	場所
下上地区運動会	10月19日(日)	菊川小学校
加見地区運動会	10月19日(日)	菊川中学校
小畑秋まつり	11月9日(日)	小畑小学校
菊川まつり	11月16日(日)	菊川小学校



8月15日～16日
 学校に泊まろう(川遊び)



7月22日～31日
 夏休み子ども教室(寺子屋)



8月13日
 四熊地区(盆踊り)

夏の行事
 各地でいろいろ

今年も各地で夏の行事がとり行われました。残念ながら8月9日に予定されていた、下上・加見の両夏まつりは、季節外れの台風により中止を余儀なくされましたが、四熊・小畑(倉内)の盆踊りは、帰省中の人も参加していたため多くの子ども達も参加し、盛大な盛り上がりを見せていました。

菊川公民館では、夏休み期間中に放課後子ども教室の一環として、菊川寺子屋、どうぶ作り体験、水ロケット製作、絵画教室、木工教室を開催しました。菊川寺子屋では、地域のボランティアの方や新南陽高校生、また、小中学校の先生方のご協力をいただき、子どもたちが夏休みの課題に取り組みました。

毎年恒例の企画として、子ども会が主催する「学校に泊まろう」が今年で休校となる四熊小学校で開催されました。子どもたちは四熊の大自然の中、ウォークラリーやそうめん流し、カレー作りや川遊びなどをし、大自然を体いっぱい感じていました。

それぞれの企画や運営に携わった皆様、大変お疲れ様でした。

もやいネット菊川地区
 ステーション設置

菊川公民館二階に「もやいネット菊川地区ステーション」が設置され、いよいよ10月1日より稼働します。

昨年、高齢者の孤立死・孤独死を防ぐのが目的で、ひとり暮らしの高齢者の相談を24時間受ける「もやいネットセンター」が市役所本庁に設置されました。そこで菊川地区社会福祉協議会では、地域の民生委員や福祉員の協力を得て、菊川公民館を拠点とした「もやいネットステーション」事業をスタートします。地域の福祉コーディネーターが、独居老人世帯等の訪問活動を行います。

この事業により、高齢者の方が住み慣れた地域で、人と人との関わりを持ちながら安心して生活できる地域づくりが進められることと思います。

行政相談所を開設

行政相談委員による行政相談を行います。土地、道路、河川、雇用、戸籍、年金、医療保険など、制度や仕組みをどこに聞いたらいいのだろうとお困りの方。お気軽にお越しください。

日時 10月22日(水) 9時～11時30分

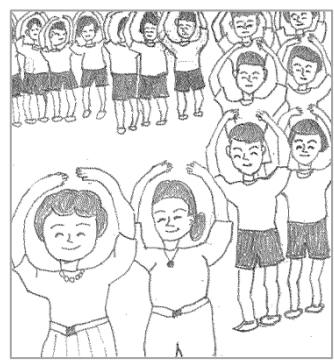
場所 菊川公民館

問合せ 行政相談委員 中村 (63-1566)

菊川日和
 夏休み前の蒸し暑い日
 「菊川音頭」の踊り方を
 依頼され、元婦人会のババ友2名
 母校の菊川中を訪問する。

新しい体育館全校生徒の二重の輪が出来、伴奏は「ソレ、ソレ、ソレ」と元気な合いの手が響き「ワをかいてワをかいて下つて下つて下つてチヨヨンがチヨン」と時計回りに踊りは進む。小学の時から踊っているので、生徒たちはバッチシ星みつ。ババ友も生徒達の若さに圧倒されながらも、菊川音頭の伝承を願い踊りやんせ、今でしょよ、きなつて踊る。おもてなしを受け生徒達から元気をもらった一日の帰り道、「よいつちやあ、ありやあ四熊の観音様じゃろう」「どいね、まっこと観音様じゃ、中学から見えるんじやね、知らんじやった」

口だけは達者、足元フラフラのババ友は手を合わせ拝むのだった。



菊川のひと



菊川音頭の作詞作曲家

三國良雄さん

「菊川音頭を作られた、きっかけを教えてください。」
 (三) 当時、「住みよい菊川をつくる会」会長の尾上さんがね、みんなで口ずさめる歌を作ろうということだったらしい。私はね、広報でその歌を募集していることを知って、応募したよ。
 「菊川音頭はどのようにしてできましたか？」
 (三) 最初に菊川音頭って名前をつけた詩が選ばれたんですよ。でもなかなか作曲者が現れてくれんからね、とうとう自分で作曲したんですよ。

「詩だけを応募したけど、最終的に作曲もされたんですね。でも作曲は難しくなかったんじゃないですか？」
 (三) 曲は毎日の散歩で口ずさみながら作ったんですよ。ただ散歩は家内と一緒にするからね、口には出さずに、ただ無言で作ったんですよ。だから家内は、なんで私がひとり口をもぐもぐして歩きよるんかと思っちゃたかもしれないね(笑)。私は譜面を書くことができなかったから、恥ずかしいけど私が歌うから、テープレコーダーに録音して、譜面に起こせる人をお願いしたんですよ。それが小学校の先生(河村さん)じゃった。

(三) そうなんよ。この曲はね、みんなの力でできたんですよ。
 「作詞はどのようにして書かれたんですか？」
 (三) ワープ口で詩を書いたね。机に座って、目の前の川をイメージして書いてたよ。せつかく菊川って言っつんじやから、川沿いにいっばい菊が咲けばいいなあって思っつね。こは虫もたくさんおっつてええところじゃなあって思っつたよ。私はね、美祿の出身でね、昔の美祿の川はこほど虫はおらんかったんですよ。菊川の出身じゃないから、ここの良さがよくわかる。

我が詩曲 菊川音頭の環となりて

善男善女 夏夜を踊る 良雄

「今も菊川音頭は祭りなどで踊られていますね。」
 (三) 私はせいぜい五、六年やってくれるかなって思っつた。



録音は、昔、農協に有線放送の部屋があつてね、その水井さんに録音してもらったね。その時にね、水井さんが、「三國さん、音頭っていうくらいだからね、掛け声があつた方がええよ。私が歌つちやげるけん」と言っつてね、菊川音頭に掛け声が入つたの。

「でも菊川音頭は祭りなどで踊られていますね。」
 (三) 私はせいぜい五、六年やってくれるかなって思っつた。

菊川 探訪

第18回

墓参りとヒガンバナ

周南市出身の「まど・みちお」さんが、今年104歳の天寿を全うされた。心から哀悼を述べたい。徳山の思い出として、詩「ヒガンバナ」がある。老人(はげ頭のおじいちゃん)が孫を連れ、ヒガンバナの咲くあぜ道を歩き、墓参りに行く光景である。まどさんの生家跡(西辻)付近は、もうすっかり住宅街になり、墓のあつた「福田寺」への道にも、ヒガンバナの花は少ない。

その水を入れる時の音が音階になり、天国にいる祖母に届くと想像する感受性の強い子供であつた。
 菊川地域はまだ昔のまどさんの生家付近の風景に、タイムスリップする様に真っ赤なヒガンバナが咲き乱れ、家族で歩きながらの墓参りもよく見かける。菊川沿いの寺院は多く、陶氏に關係したものであり、その一族や家臣団を供養する目的の建立であるが、いざ合戦時の防衛上のことも考え、土塁や石垣が立派である。
 ヒガンバナは、花の華やかさとは逆に、その球根に有毒性があり、それゆえ、墓地や農地を荒らす小動物が嫌う為、人が植えたところ、墓地が管理されていることは子孫の繁栄の象徴であり、現世のひとが先祖に感謝する証の場所である。墓参りが行事で無く、まどさんの時代の様に心温まる風景が続くことを祈る。

まどさんが生まれたのは、明治42年(1909年)であり、祖父と暮らした4年間は丁度100年前になる。まどさんのお父さんは養子であり、旧徳山藩の没落した士族の家計を助ける為、戦前日本の統治下の台湾に渡り、電話工事の仕事をしてた。仕事に目処が立ち、家族を呼び寄せるとき、まどさんだけを残し、祖父母に教育を任せた。間もなく祖母が亡くなり、祖父と二人での生活になり、その体験がその後の詩の世界の原点になつたとは、誰も思わなかつたであらう。墓と言つても、現在の墓と随分違い、花立の筒は竹であり、そこに水を入れることが子供の仕事で



(ヒガンバナ)

読書の秋、話題作続々



「長生きしたけりや ふくらはぎをもみなさい」 鬼木 豊 (監修) 榎 孝子 (著)
 「昨夜のカレー、明日のパン」 木皿 泉



「人生はワンチャンス!」 水野 敬也
 「人生はニャンとかなる!」 長沼 直樹

半沢直樹 史上最大の倍返し!!



「銀翼のイカロス」 池井戸 潤



「女のいない男たち」 村上 春樹

公民館文庫 新刊入荷!!



「村上海賊の娘 (上巻・下巻)」 和田 竜



「居酒屋 ぼったくり」 秋川 滝美
 「あなたのママはね」 絵本

笑顔リレー



大輔くん(2か月) 元気に大きくなってね!



右: 愛華ちゃん(2歳) 左: 優里ちゃん(6か月) これからも姉妹仲良く遊んでね!



大輔くん(8か月) 元気いっぱい育ってね!

かわいい笑顔を集めてみました。掲載可能な写真がありましたら、一言コメントを添えて広報部(菊川公民館内)までご連絡ください。